



1,300 問答の建築よろず相談

# YOROZU 通信 NEWS

Vol.02

2018.3.11

ニュース 発刊 ; 2018 3月号

## 建築士として、まちづくりを考える

大河ドラマ「西郷どん」で今熱い鹿児島建築士・志賀です。何か書こう、何か書こうと思いつつ日が経ってしまいました…フェイスブックでは何かと駄文を書き連ねているのですが、こうしたカッコリした記事になると、何を書いていいのやら、ついつい後回しにしてしまい今に至ります。

さて、弊社は建築設計事務所なので、普段、図面を書いたり、役所を回ったり、打合せをしたり、現場の検査をしたりしてます。大変なこともあります。何とか事務所を続けております。

で、個人的に勝手にライフワークとして、頑張っているのが、まちづくりに携わる活動です。写真はリノベーションスクールという遊休不動産、空き家を活用したまちづくりの企画提案をするイベントに

参加して、意気投合した仲間と活動している「京町勝手に応援団」の写真です。鹿児島の鹿屋という地域の古き良き昭和の香りする京町横丁を応援するという趣旨で、お祭りに参加したり、月一で飲み会をして、横丁にお金を落とすということをやっています。

そんなことを続けていますと、不思議とあちこちの「地域おこし協力隊」の方とつながりが出来たりして、鹿屋に続き、私の地元でもある阿久根、陶芸のまち美山などに関わっております。鹿児島市内でも元ホテルや古い空き家のリノベーションの相談が来たりします。(ただ一人親方の限界で、手が回っていないのが現状です)

「地域おこし協力隊」の方々は話をしていて面白く、本当にピュアな気持ち

で熱心に仕事をされています。そうした姿に感化されて、「自分も頑張ろう」と元気をもらっています。

鹿児島は全国的にも遊休不動産、空き家の数が多く、地域ではシャッターが閉まったままの商店街がまちの風景となっています。そうした時代の建築設計事務所の仕事の在り方として、建築士の職能を活かして、様々なスキルを持った方々とチームになって、まちづくりの一助となるような活動はいいのではないかと考えています。

最後に写真の MAEZONO という元スナックは「畑パン」というベーカリーに生まれ変わって、京町の新しい風景として馴染みつつあります…